



谷川で見つけた白や青白い小さいカニは、何ガニなの

サワガニは、いろいろな体色をしている

山の谷川で見かける小さいカニは、ほとんどサワガニです。ふつう見かけるサワガニは、茶っ色が、それが少し黒っぽい色、あるいは赤っぽい色をしていることが多いものです。けれど、場所によっては、うすい黄色や青色、むらさきがかかった色、真珠のような白い色などをしたサワガニがいます。この体色は、すんでいる場所や、水にふくまれている物のちがいなどによると考えられます。赤っぽい体色のサワガニをとってきたのに、飼っているうちに、茶っ色に変わることがあります。

サワガニは、水からはなれても平気

サワガニは、まだ小さいうちは、川底の石の下などをすみかにして、水中で、水生こん虫や貝などをとらえて食べています。体が大きくなったサワガニは、湿り気のある所なら、川からかなりはなれた場所まで出かけ、バッタなどのこん虫や、ミミズなどをとらえて食べます。体が乾燥すると困るので、晴れた日は早朝や夕方だけ、雨の日は1日中、草むらなどを動き回っています。

卵は母親のおなかで守られる

サワガニは、谷川の水の中で卵を産むと、母親が卵をおなかにかかえて動き回ります。サワガニの子どもは、卵の中で、子ガニの形になるまで育ったら、殻を破って外へ出てきます。その後、2週間ぐらいいは、子ガニは母親のおなかにしがみついてくらし、殻がかたくなったら、母親からはなれていきます。(監修・中山 周平)

